

新年のご挨拶

代表 森屋 治三



森屋 治三

あけましておめでとうござい
ます。本年もよろしくお願
い
します。

まずは、昨年後半の大型台
風による未曾有の被害にお見
舞い申し上げます。いまだ復旧
作業が続いていますが、一日も
早く元の生活に戻れることを
お祈りします。

さて、昨年の新日美展では、
レベルの高い作品が寄せられ、
また芸術の森上野に出品する
ぞという意気込みのうかがえる
力作がそろい、生き生きした展
覧会となり、歴史ある公募団
体としての存在を感じさせる
ものでした。

また開催に当たって「出品者
と来場者と一体となった展覧
会」を目指して、「ギャラリート
ーク、人物デザインデモ、切り絵

体験、剪画体験」を企画実施
しましたが、各回とも大勢の参
加者で賑わいました。

特に体験型の講義では、余
分に準備した用具・材料など
足りなくなるほどでした。体験
制作に参加された皆さんは、
思い思いにご自分のイメージを
膨らませて作品と対話しなが
ら制作に熱中し、表現してい
く姿、無垢な童心をよみがえら
せ夢中になって向き合う姿が
印象的でした。

参加された方々から、ご自
分の作品をみて「次回もぜひ参
加したい」とのコメントが数多
く寄せられました。これこそ私
共が会則の目的に掲げる「美術
文化の向上発展に寄与する」こ
とであります。これからも、質
の高い作品制作ならびに、芸術
文化のより一層の普及を目指
す活動が、今後の新日美展の
スタイルになればと思います。
会員皆様の更なるご発展と
ご健康を祈念し「ご挨拶としま
す。

回 会 報

169号

新日本美術協会

事務局
横浜市港南区港南台
1-39-5
鈴木忠義方
TEL045-832-0504

編集委員
石原 修
早田美智子
小高峯夫
篠 光定
湯澤朱美

原稿常時募集
次号令和2年5月予定

新春徒然草

事務局長 鈴木 忠義



鈴木 忠義

新年明けましておめでとうござ
います。
私は初夢で、新日美が大きく躍
進する夢を見た。朝起きて何か爽
やかであった。

いま地球温暖化で気候変動が
激しい。昨年の二台風は各地、特
に関東の千葉県に甚大な被害を
残した。五〇年、百年に一度の大
災害だが、今後毎年来るらしい。
世界でも同様だった。大きな変化
は気象現象に留まらず、政治経済
でも、米国と中国の貿易摩擦で我
が国メーカーは拠点を東南アジア
へ英国のEU離脱で金融生産拠
点をEU域内へ移動させている。

私事で恐縮だが、昨年四三回展
での作品名は「令和玲瓏霊峰」だ。
富士で十分だが外部審査員の
中野先生は玲瓏と韻を踏んだ題
名と私の意図を即座に把握され
的確に講評された。洞察力の深さ
に敬服♪
所で初夢は正夢になるのか、は
たまた色々と変化するのかな？

開かれた新日美展へ

事業部長 永野 信



永野 信

昨年九月末からの第四三回新
日美展は会報一六八号に小高実
行委員長と中野先生、芳賀先生
それぞれから明解な概況・講評が
報告されている通り、これまでとは
異なる転換期でありました。

これからの会の運営はまずは高
齢化する会員や応募者とデジタル
化世代の若者を迎え入れる体制、
雰囲気醸成することでしょう。
出展者、来場者と対話のできる開
けた展示会場でなければなりません。

そして、作品の制作・評価におい
ては技法とともに豊かな人生経験
や、多様性に富んだ若者たちの感
性・個性から創作される作品の、
見る人に生きる勇氣と感動を与え
る作品を追求しましょう。

また、絵画小品部門は高齢者か
ら若者たちのダイバーシティな真に
絵画を楽しむ人達が多く、今後要
請される部門として注力しなければ
なりません。